

平成17年度病害虫発生予察 予報第10号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年1月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

<予想される向こう1か月の天候>

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並が高く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目、3～4週目は平年並でしょう。

要素	要素別確率		
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	並(前年比) やや少 やや少 並	並(前年比) やや少 やや少 並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	少 並 並 やや少 やや多 多	少 並 並 やや少 やや多 多
たまねぎ	白色疫病 ネギアザミウマ	やや少 やや多	やや少 やや多
いちご	うどんこ病 萎黄病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類(注意報第7号)	並 やや多 やや少 やや少 やや多	並 やや多 やや少 やや少 多

【トマト】 ( )内は平年値 [以下同じ]

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並(前年比)

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(前年0.3%)、発生圃場率は16.7%(前年8.3%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、発病は認められなかった( 発病株率  
0 . 0 %、発生圃場率 5 . 0 % )。

### 3 . 葉かび病

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 少
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、発病は認められなかった( 発病株率  
1 . 6 %、発生圃場率 1 4 . 6 % )。

### 4 . コナジラミ類 ( 外<sup>\*</sup>コナジ<sup>\*</sup>ラミ、シバ<sup>\*</sup>-リーコナジ<sup>\*</sup>ラミ、オシコナジ<sup>\*</sup>ラミ )

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 並
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、寄生株率は 0 . 7 % ( 0 . 6 % )、  
発生圃場率は 1 6 . 7 % ( 1 3 . 5 % )であった。

## 【きゅうり】

### 1 . ベと病

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 少
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、発病葉率は 0 . 3 % ( 5 . 4 % )、  
発生圃場率 1 6 . 7 % ( 4 8 . 3 % )であった。

### 2 . うどんこ病

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 並
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、発病葉率は 3 . 9 % ( 3 . 1 % )、  
発生圃場率は 3 3 . 3 % ( 3 1 . 7 % )であった。

### 3 . 褐斑病

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 並
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、発病葉率は 1 . 2 % ( 1 . 1 % )、  
発生圃場率は 2 5 . 0 % ( 1 9 . 6 % )であった。

### 4 . 灰色かび病

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 やや少
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、発病は認められなかった( 発病果率  
0 . 2 %、発生圃場率 1 2 . 4 % )。

### 5 . ミナミキイロアザミウマ

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 やや多
- ( 2 ) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査( 1 2 筆 )の結果、寄生葉率 0 . 5 % ( 0 . 4 % )、発生  
圃場率 5 0 . 0 % ( 1 3 . 0 % )であった。
- ( 3 ) 防除上注意すべき事項  
早期発見につとめ、初期防除を徹底する。

### 6 . コナジラミ類 ( シバ<sup>\*</sup>-リーコナジ<sup>\*</sup>ラミ、オシコナジ<sup>\*</sup>ラミ )

- ( 1 ) 予報内容  
発生程度 多

- (2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.3%(0.4%)、  
発生圃場率は41.7%(11.3%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項  
ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。  
イ 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 【たまねぎ】

1. 白色疫病  
(1) 予報内容  
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率  
0.0%、発生圃場率1.0%)。
2. ネギアザミウマ  
(1) 予報内容  
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は13.6%(9.4%)、  
発生圃場率は53.3%(42.0%)であった。

#### 【いちご】

1. うどんこ病  
(1) 予報内容  
発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
ア 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.2%(0.5%)、発病  
果率0.0%(0.1%)、発生圃場率は11.1%(7.9%)であった。  
イ 病害虫防除員の調査報告では、多発圃場が一部で見られる。
2. 萎黄病  
(1) 予報内容  
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、  
発生圃場率7.4%(0.0%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項  
ア 発病および枯死した株は感染源となるので速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺  
に放置しない。  
イ 多発圃場では、次年度の定植前に土壌消毒を行う。
3. 灰色かび病  
(1) 予報内容  
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病は認められなかった(発病果率  
0.1%、発生圃場率13.0%)。
4. アブラムシ類  
(1) 予報内容  
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.3%(1.6%)、  
発生圃場率は14.8%(19.0%)であった。
5. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)  
平成18年1月17日付け、病害虫発生予察 注意報第7号による